快進撃！



　**映画『２ガンズ』**

　十一月一日の映画の日に、デンゼル・ワシントンが出演しているというので観に行きました。デンゼル・ワシントンとの出会いは古く、かれこれ二十年以上前のことになります。最初に観た映画は『モ・ベター・ブルース』で、デンゼルはジャズ・トランペッターの役を演じていました。ジャズに興味を持ち始めた私にはグッと来る映画でした。監督はスパイク・リーという黒人監督で、その後『マルコムＸ』という１９６０年代の黒人指導者を主人公にした映画も撮っています。私が大学生の頃は、ラップやヒップホップなどの黒人音楽が注目され、ＮＢＡではマイケル・ジョーダンやマジック・ジョンソンなどのスーパースターの活躍もあり、ちょっとした「黒人ブーム」でもありました。

　さて今回のこの映画ですが、ちょっぴり期待はずれでした。君たちはテレビで地上波になったときに見ればよいでしょう。しかし、毎月一日に千円で映画を観られるのは

ありがたいことです。ちな

みにマイカル小樽では、高

校生三人以上で行くとや

はり一人千円で観られま

す。たまに映画でも観に行

って下さい。

*あしたのために*

 *for tomorrow*

***April 9, 2012→March 1, 2015***

*その２４ November 11, 2013*

北海道小樽潮陵高等学校

*２年E組学級通信　発行者：中矢秀人*

感受性を豊かに（五十九）

この学級通信は､君たちと私の明日のために、週１回発行する予定です。

　以下に述べることは、登場する団体や個人の功績に対して、いかなる批判を加えるものではありません。その功績を評価しつつ、中矢個人が抱いた感想を述べたものです。

　高校野球秋季大会終了後の９月末、『ミスター・サンデー』という日曜夜のニュース番組で、双葉高校野球部が取り上げられていました。その時間私は「夢の国」にいることが多く、その日も眠っていたのですが、妻が「起きて！」というので、「何か事件か！？」と飛び起きてみると、小樽支部予選での双葉高校の快進撃の模様が放映されていました。双葉高校野球部は、３年生引退後は部員不足で、登録メンバーの約半分をスキー部や帰宅部の生徒で補っていて、にもかかわらず、地区予選で勝ち上がりました。代表決定戦では北照高校に敗れてしまったけれども、テレビの放送では、その健闘を称えるものでした。私も途中からですが、楽しく見ていました。実際、双葉高校の試合も審判しましたが、「助っ人」が多い分、その戦い方は清々しく、小細工なしの気持ちの良い試合でした。私も、天塩高校にいたときは、小規模の学校なので、慢性的に部員不足でした。ぴったり９人で大会に出たことも、他の部から助っ人を借りて出場したこともあるので、部員不足の辛い気持ちも良く理解できているつもりです。ただ、双葉高校の側から見れば「快進撃！」であっても、北照高校以外の他のチームについて見ると、我々はちょっと「ダラシナカッタ」といわれてもしょうがありません。勝敗は水物で、時の運に左右されることも多いのですが、自前でチームが作れているのであれば、「負けてたまるか」という強い気持ちで勝負に臨みたいものです。ちなみにこの番組では、石井君のお父さんのコメントと写真も登場していました。

　創設９年目にしてチームに初めての日本一をもたらした東北楽天イーグルス・田中将大投手の日本シリーズでのピッチングは圧巻でした。田中投手は今シーズン２４連勝の無敗でレギュラーシーズンを終え、昨年から今年のポスト・シーズンまで３０連勝と、あの「神様・仏様…」、あるいは「鉄人…」と呼ばれた稲尾投手の持つ連勝記録を、傍目には軽々と更新したように見えました。ただ、ここでも感じるのは、他のチームがあまりにも「ダラシナイ」のではないか？ということです。今年も一度、田中投手登板の日に、札幌ドームでファイターズ対イーグルス戦を観戦したのですが、もちろんファイターズの選手は田中投手に「負けてたまるか」と必死なのでしょうが打線に元気はなく、完全に田中投手に気圧されているようにも見えました。田中投手の連勝記録に関して、「自分がいたらこの記録は作らせていない」と発言していたのは、テキサス・レンジャーズのダルビッシュ投手ぐらいでしょうか。今年初めての敗戦投手になったとはいえ、日本シリーズ第６戦の１６０球完投、翌日ヨレヨレながらも胴上げ投手になった投球には、アメリカの野球関係者はヒヤヒヤしたことでしょうが、私は野球ファンとして、グッと来ました。現在ポスティングなどのシステムを整備中で、田中投手の今後については不透明な部分もありますが、来年はアメリカで多くの打者を薙ぎ倒す姿を見たいものです。

　ご存じのように、田中投手は駒大苫小牧高校出身で、私は直接その球を見たことはないのですが、もしかしたら練習試合などで審判していたかも知れないと、こちらは勝手に身近に感じてしまう大投手です。そんな選手が、世界で活躍するかも知れないと考えるのは楽しいことで、スポーツの楽しみとも言えるかも知れません。スポーツでなくても、一つのことを続けていると、こういうことに出会うこともあるから、君たちも、何かやっていることがあれば、続けた方が良いですよ。

　３年次科目選択について④

　科目選択については最後になります。今回は理科について。今授業を受けている「物理」または「生物」は３年次引き続き学習をします。それ以外の週４時間の理科の授業を、どちらか選択することになります。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **理　科** | 化学④ | 化学研究②／生物研究② |

　理系の王道は「化学」ですが、受験する学校によっては「基礎科目」で十分という場合もあります。

　難関校を志望している場合には、迷わず「化学」です。その他、理学部・工学部・薬学部・医学部を志望する生徒は「化学」。

　看護を志望する生徒の内、北大志望は「化学」。札幌市立大は「化学研究／生物研究」。判断に迷うのは札医大。「専門２科目」で行くか、「専門１科目＋基礎２科目」でいくか。専門２科目の「重さ」と科目の領域が３つにわたる「広さ」とを天秤にかけなければなりません。

　同様に判断に迷うのが、教育大と樽商大。王道は「専門２科目」受験だと思いますが。その「重さ」を敬遠した場合、「専門１科目＋基礎２科目」でも受験できます。ただ教育大の場合には、同一名称の科目(例えば、「物理基礎」と「物理」)重複選択が認められていないので、札医大・看護のように３科目の学習が必要となります。

　一方、樽商大の場合には、同一名称の科目の重複選択ができること

になっているので、「専門１科目＋基礎２科目」で受験する場合には、先述した、札医大・看護や教育大よりは負担が軽いと言えます。

　小樽高看のような「高等看護専門学校系」への進学を考えている人は、「化学研究／生物研究」でよいでしょう。

　各分野について選択科目を考えてきましたが、こんな大まかな分類ではとても個別に対応しているとは言えません。第１志望だけでなく、第２・第３志望まで視野に入れながら考えることが必要ですので、保護者ともよくコミュニケーションを取った上で、結論を出すようにして下さい。

　「本調査」の提出期限は１２月４日（水）です。

　保護者懇談会について

　１１月２６日(火)と２７日(水)（期末考査１日目と２日目）の２日間「保護者懇談会」を予定しています。土・日でなければ都合が悪いという保護者の方もいらっしゃると思うので、考査終了後の１１月３０日（土）、１２月１日（日）にも実施しようと考えています。また、声をかけて頂ければ、平日の４時以降や他の休日などにも懇談を実施できる日があるかと思いますので、遠慮なくお申しつけ下さい。生徒にはすでに「保護者懇談会について」のご案内を配布しております。提出の期限が１１月１８日（月）となっていますので、よろしくお願いいたします。